

板倉賛治（いたくらさんじ）

明治10年（1877）に板倉仁三郎の長男として新川の乙立〔浅間町〕に生まれた。

明治22年（1889）に愛知県第一師範学校を卒業した賛治は、母校の新川高等小学校の教壇に立った。

その後師範の附属小学校の訓導を経て、東京高等師範学校へ進学した。



板倉賛治

明治41年（1908）に図画手工専修科を卒業し、母校東京高等師範学校の助教授となった。幼児より好きだった水彩画に専念した。明治43年に『新体中等図画手本』や『中等図法教本』を製作した。それは全国の中等学校の教科書として使用された。

大正2年（1913）には「日本水彩画会」の創立に尽力し、会員として活躍した。大正九年に『図画教育スケッチの実際』や『板倉図案集』を刊行して、美術教育家としての名声を博した。昭和3年（1928）に東京高等師範学校の教授に進んだ。昭和5年に小学生のための『少年少女自習帖』を製作した。これは子供たちの家庭学習の参考書として大いに役立った。学校の図画教育の向上を目指して昭和6年に『図画教授宝典』を、昭和8年には『図画教育』を編集出版した。昭和12年（1937）にこれまでの作品をまとめた『板倉賛治画集』が刊行された。

昭和16年に勅任官待遇となり、勲三等瑞宝章を接与された。翌年に高等官二等正四位を受け、東京高等師範学校退官に当たり従三位に叙せられた。

昭和24年（1949）にロンドンで開かれた「日英交歓展覧会」に作品を提供し、国際交流に貢献した。昭和36年には風景を中心とした写生画等20点を碧南市へ寄贈した。昭和38年、今までの作品を集大成した『米寿記念、賛治画集』を発刊した。

昭和40年（1965）に88歳の生涯を閉じた。日本の芸術教育の振興のために尽くした一生であった。

（碧南市発行「碧南辞典」より引用）